

岡山県感染症週報 2019年 第21週 (5月20日～5月26日)

◆2019年 第21週 (5/20～5/26) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第19週 5類感染症 ウイルス性肝炎 1名(20代 男)
梅毒 1名(20代 男)
- 第20週 4類感染症 レジオネラ症 1名(90代 男)
5類感染症 アメーバ赤痢 1名(50代 男)
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(60代 男)
侵襲性肺炎球菌感染症 1名(60代 男)
百日咳 1名(乳児 男)
- 第21週 2類感染症 結核 8名(高校生 男 1名、20代 男 1名・女 1名、
40代 男 1名・女 1名、70代 女 1名、80代 女 2名)
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名(O157:70代 女)
4類感染症 デング熱 1名(30代 女)
5類感染症 梅毒 1名(30代 男)
百日咳 1名(小学生 女)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- 感染性胃腸炎は、県全体で371名(定点あたり6.89→6.87人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
○手足口病は、県全体で178名(定点あたり1.43→3.30人)の報告があり、前週から増加しました。

【第22週 速報】

- 日本紅斑熱 1名(60代 男)の発生がありました(5月28日)。
○腸管出血性大腸菌感染症 1名(O血清群不明:50代 女)の発生がありました(5月29日)。
○感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が1施設でありました(5月30日)。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第21週に1名の報告があり、2019年第21週までの累計報告数は11名となりました。例年、同感染症は、6月中旬から8月にかけて発生が多くなります。食品の十分な加熱処理、調理前や食事前の手洗いなど、食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。県内の発生状況など詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症について](#)』をご覧ください。
2. [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)](#)は、2019年第21週までに1名の報告がありました。SFTSは、ウイルスによって引き起こされる感染症で、病原体を保有するマダニ(フタトゲチマダニ等)に咬まれることで感染します。ダニに咬まらないための予防対策についてはコラム「[ダニが媒介する感染症に注意しましょう!](#)」をご覧ください。
3. [風しん](#)は、2019年第21週までに3名の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。岡山県内の発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で371名(定点あたり6.89→6.87人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市(9.93人)、倉敷市(8.09人)、備前地域(7.30人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、1歳が最も多く、乳幼児を中心に多く報告されています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、一般的な感染性胃腸炎対策に努めてください。感染予防の詳細については『[ノロウイルス感染症とその対応・予防](#)』(国立感染症研究所)や『[ロタウイルスに関するQ&A](#)』(厚生労働省)をご覧ください。
5. [手足口病](#)は、県全体で178名(定点あたり1.43→3.30人)の報告がありました。過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、岡山市(5.29人)、備北地域(5.25人)、備前地域(4.10人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市および備北地域では発生レベル3となっています。年齢別では、1歳が最も多く報告されています。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↘	★★
咽頭結膜熱	↗	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	↗	★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★★★	伝染性紅斑	↗	★
突発性発疹	↗	★	ヘルパンギーナ	↗	★★
流行性耳下腺炎	↗	★	急性出血性結膜炎	↗	★
流行性角結膜炎	↗	★	細菌性髄膜炎	↗	
無菌性髄膜炎	↗		マイコプラズマ肺炎	↘	
クラミジア肺炎	↗		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↘	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↘：減少 ↓：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

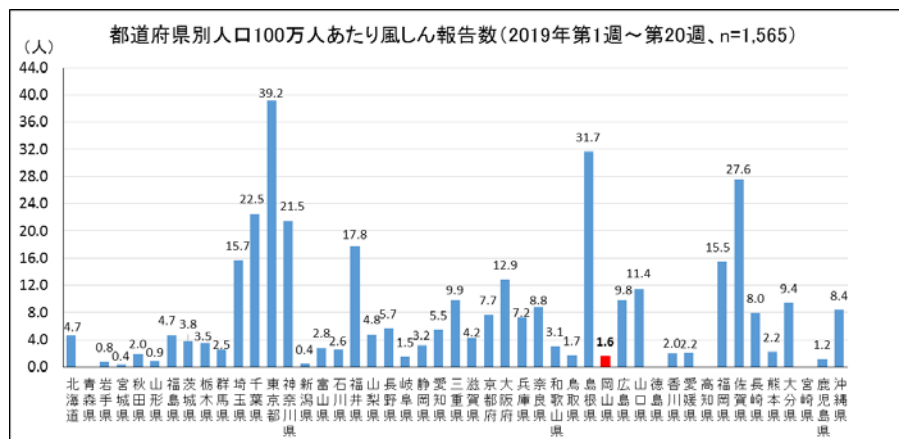
感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

・全国

2018年に全国的に流行しました（2018年の全国の風しん届出数：2,937名。2015～2017年の3年間では年間93～163名）。人口100万人あたりの患者報告数は全国で23.1人となり、東京都が70.5人で最も多く、次いで千葉県の61.7人、神奈川県45.5人、福岡県32.7人、埼玉県26.2人と続きました。2019年に入ってから、全国では第1週から第20週の風しん累積患者報告数は1,565名となり、第19週の1,486名から79名増加しました。

2019年第1週から第20週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で12.3人となり、東京都が39.2人で最も多く、次いで島根県31.7人、佐賀県27.6人、千葉県22.5人、神奈川県21.5人、福井県17.8人、埼玉県15.7人と続いています。

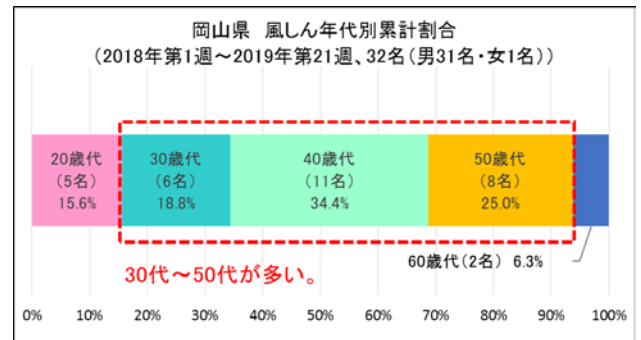


患者の9割以上が成人で、男性が女性の4.0倍多く報告されており、特に30代～40代の男性に多くなっています（男性患者全体の6割）。なお、岡山県は、前週と同様、人口100万人あたり1.6人です。中四国地方では、島根県（31.7人）、山口県（11.4人）、広島県（9.8人）の順に多くなっています。

・岡山県

2018年の累計で29名（男性28名、女性1名）の報告がありました。

2019年は第3週に1名（50歳代男性）、第4週に1名（20歳代男性）、第6週に1名（30歳代男性）の報告があり、2018年から始まった全国的な流行における岡山県での患者累計（2019年第21週まで）は32名となりました。



<参考：中国・四国地方の状況>

- ・2018年第1週～第52週累積報告数（カッコ内は人口100万人あたりの患者報告数）

岡山県：29名（15.1人）、広島県：28名（9.8人）、山口県：24名（17.1人）、愛媛県：7名（5.1人）

- ・2019年第1週～第21週（速報値）累積報告数

岡山県：3名（1.6人）、広島県：28名（9.8人）、山口県：18名【前週+2】（12.8人）、島根県：24名【前週+2】（34.6人）、香川県：3名【前週+1】（3.1人）、愛媛県：3名（2.2人）

●先天性風しん症候群(CRS)とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。

全国では、2019年第4週および第17週に、各1名ずつの先天性風しん症候群の発生報告がありました。

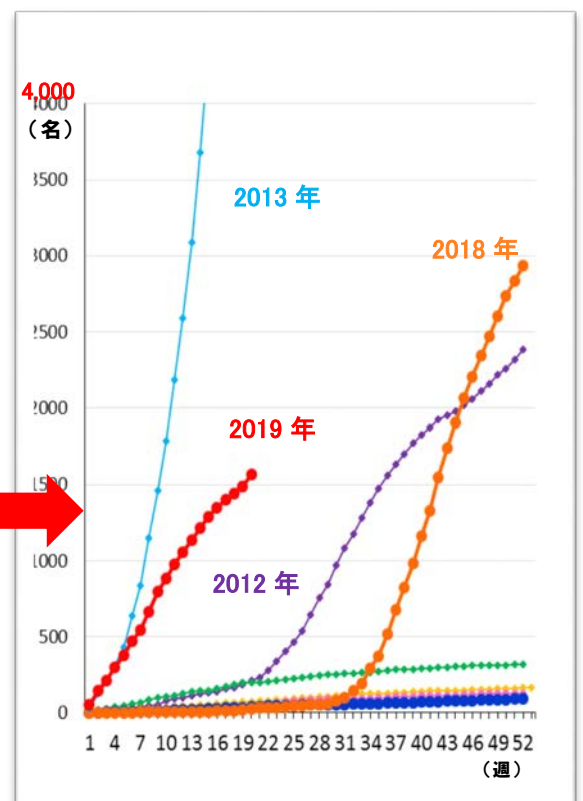
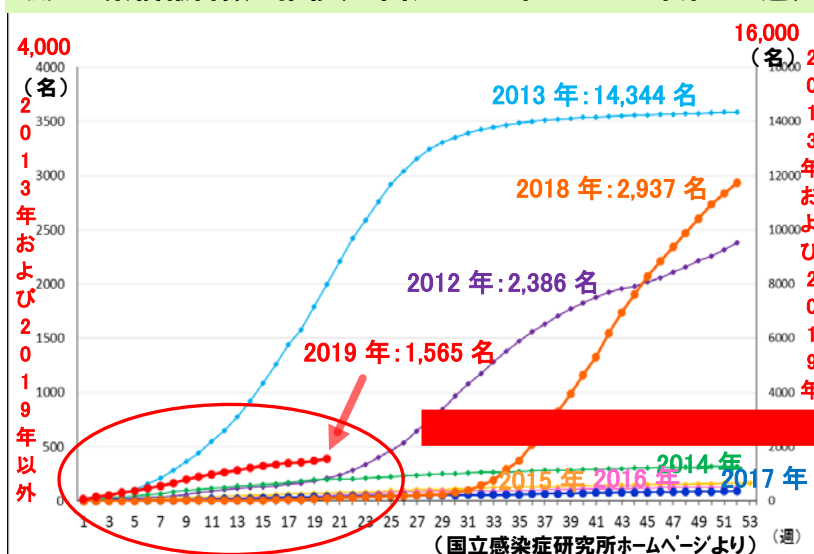
●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

岡山県でも、全国の状況と同様に、30歳代～50歳代の男性が患者のほとんどを占めており、大きな問題です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」

風しん累積報告数の推移(全国、2012年～2019年第20週)



風しんの予防について

岡山県で風しん患者が発生しています！

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、風しんの抗体保有率が低い30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

また、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い**1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性**に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる制度が、全国的に始まりました(**2019年から2021年度末までの約3年間**)。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。お住まいの市町村予防接種担当課にお問い合わせください。

→ [風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)



[生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう
\(岡山県健康推進課\)](#)

詳細は・・・

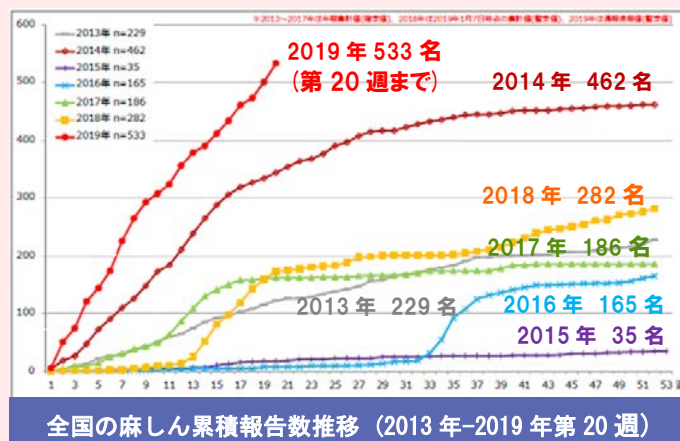
[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\)\(国立感染症研究所\)](#)
[風しんについて\(厚生労働省\)](#)
[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)

注意喚起情報～麻疹感染拡大中!

●全国的に麻疹（はしか）の感染患者が確認されています！

現在、大阪府（142名）や東京都（96名）、神奈川県（52名）（5月26日まで）などで感染者数が増加しており、全国的な感染拡大が懸念されています。

なお2019年第20週までで、全国では533名の患者が報告され、2018年一年間の報告数の約1.9倍となりました。



●「麻疹（はしか）」とは

麻疹ウイルスによる急性熱性発疹性疾患です。感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染など様々で、その感染力は非常に強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。手洗い、マスクのみでは予防はできません。

●症状

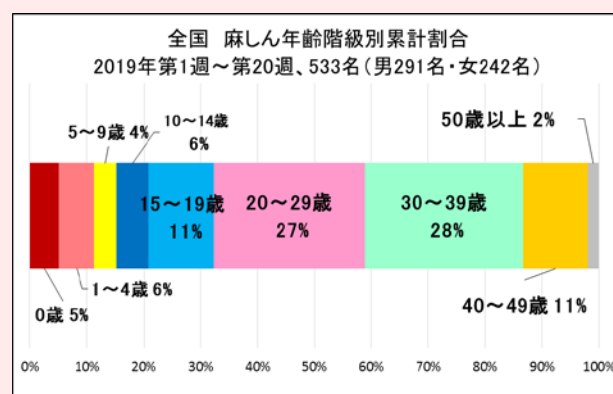
感染すると10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。38℃前後の発熱が2～4日続いた後、高熱（多くは39.5℃以上）と発疹が出現します。通常は7～10日後には回復しますが、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります（麻疹の二大死因は肺炎と脳炎です）。また、妊婦が感染すると、母体が重症化する恐れがあり、流産や早産を引き起こす可能性もあります。胎児に奇形を起こすことはないと言われていますが、発育異常や新生児麻疹（分娩時り患）などをきたすおそれがあるとされています。なお、麻疹の感染が疑われる場合は、感染拡大防止のため、受診前に医療機関に連絡をし、その指示に従ってください。

●麻疹はワクチンで予防できます！

麻疹の予防にはワクチンの接種が重要で、2回接種することでほぼ確実な免疫を得ることができるといわれています。ただし、1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

麻疹感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください。この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に28歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。



[麻疹について（厚生労働省）](#) [麻疹とは（国立感染症研究所）](#)

[「妊娠している方へ麻疹（はしか）の流行についてのご注意」（日本産婦人科医会）](#)

医療関係者の方へ⇒ [「医療機関での麻疹対応ガイドライン（第七版）」（国立感染症研究所）](#)

6 / 1 ~ 6 / 7は『HIV検査普及週間』です！

— 早めに受けよう！大事なエイズ検査！ —



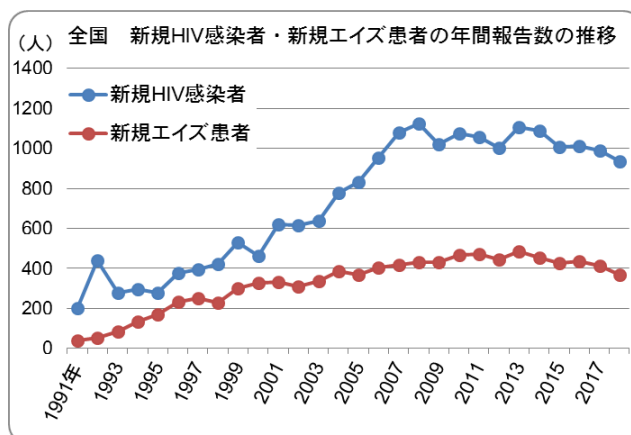
レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

岡山県は、『受けやすい検査』『戦略的な普及啓発』『関係者の連携強化』を3本柱に、全県を挙げて、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染防止と「いきなりエイズ[※]」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。その作戦の重点実施期間である「HIV検査普及週間（6/1～6/7）」の事業として、6月中旬に県内の保健所・支所において、啓発イベントを実施します。また、夜間や休日にも特例検査を実施します（詳細はこちらから → [【おかやまエイズ感染防止作戦】](#)）。

※「いきなりエイズ」とは、エイズ（AIDS 後天性免疫不全症候群）発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。HIV 感染後エイズ発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。HIV 感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染のひろがりにつながる可能性もあり、対策が必要です。

1. 全国の新規 HIV 感染者と新規エイズ患者

2018 年の国内における新規 HIV 感染者および新規エイズ患者（いきなりエイズ）報告数は 1,288 件（速報値）であり、近年はほぼ横ばいでしたが、2018 年は若干減少しました。しかし、新規エイズ患者（いきなりエイズ）報告数は、全新規報告数の約 3 割のまま推移しており、HIV 検査が未だ十分に行き届いていないことが示唆されています。

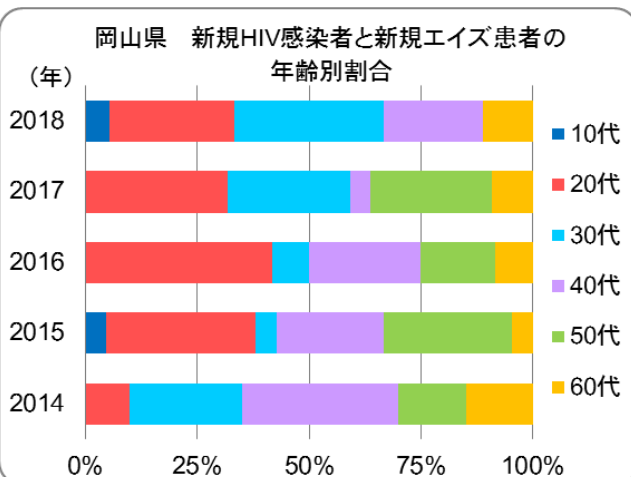
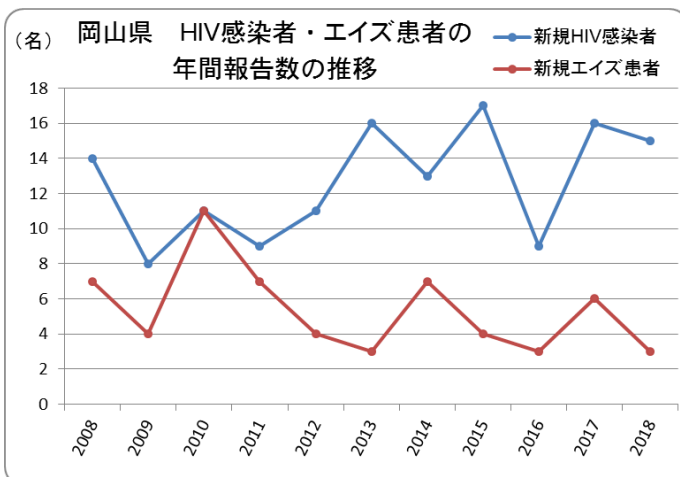


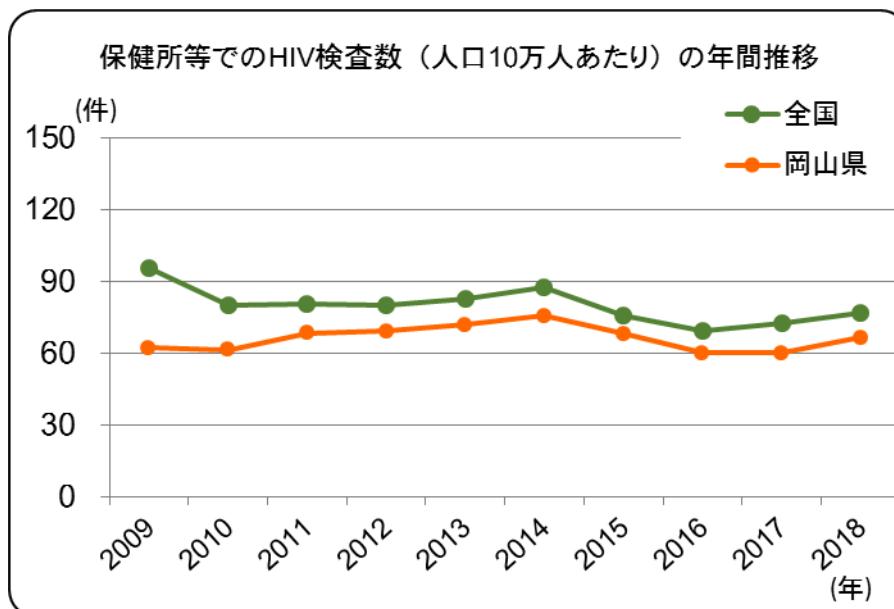
新規 HIV 感染者 …… HIV に感染しているものの、受診時にエイズを疑う症状がなかったもの。

新規エイズ患者 …… 受診時、すでにエイズを発症しており、「エイズ（AIDS）」患者として報告されたもの（既に HIV 感染者と報告され、後にエイズを発症した症例は除く。）

2. 岡山県の新規 HIV 感染者と新規エイズ患者

2018 年の岡山県における新規 HIV 感染者及び新規エイズ患者（いきなりエイズ）報告数は 18 件であり、男性が 15 名、女性が 3 名でした。年齢別割合をみると、10～60 代で発生が報告されており、特に 20～30 代の割合が高くなっています。なお、10 代の報告があったのは 2015 年以来 3 年ぶりです。全新規報告数はほぼ同数（2017 年 22 名）で、新規エイズ患者（いきなりエイズ）も引き続き報告されています。岡山県内で自発的に HIV 検査を受けた人の数は、2014 年から減少傾向にあり、近年は横ばい、2018 年は微増しましたが、依然として全国と比較して少ない状況が続いています。





3. HIV 検査について

HIV に感染してからエイズ発症までは、通常数年程度自覚症状がない時期が続くため、感染していることに気づきにくく、知らないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIV 治療は急速に進歩しており、早期に感染を知り発症する前に適切な治療を開始できれば、定期的に通院しながら今までとほぼ同じ生活を送ることが可能です。HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないとわかりません。早期発見・早期治療がエイズ発症防止や感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1,000 円）などでの HIV 検査を積極的に利用しましょう。

岡山県内の保健所・支所では、 HIV 検査普及週間の関連事業として 定例日以外や夜間等にも検査を実施しています。

- * 検査は無料・匿名で受けることができます。
- * 通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。
- * 確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3 か月たって検査することをおすすめします。
- * 事前に電話で予約が必要です（保健所によっては予約不要の日時もあります）。

○県内 11 か所の保健所・支所における HIV 検査普及週間関連検査の日時、予約方法、HIV 以外の性感染症や肝炎の検査についてはこちらから

→ [【おかやまエイズ感染防止作戦】](#)

県内 10 か所のエイズ治療拠点病院でもエイズ検査が受けられます。

○エイズ治療拠点病院における検査日時はこちらから

[【令和元年度 エイズ治療拠点病院における HIV\(エイズ\)検査実施日時】](#)

- * いずれの拠点病院でも一律 1,000 円で受けられます（要予約）。
- * 検査は原則匿名では受けられませんので、ご注意ください。
- * 検査結果は検査を受けた日（約 1～2 時間後）にお知らせします。
- * 検査には、感染の機会のあったと思われる日から、8 週間以上経過していることが必要です。

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外で活動する場合、以下のことに気をつけましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。

これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)**や**日本紅斑熱**、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものもあります。

春から秋(3~11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



吸血前の
フタゲチマダニ♀



吸血後

【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディートやイカリジンを含むもの)を噴霧しましょう。
(虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。
入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合(2、3日以内)は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合(数日以降)は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。
また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



ヤマアラシチマダニ

保健所別報告患者数 2019年 21週(定点把握)

(2019/05/20～2019/05/26)

2019年5月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	31	0.37	6	0.27	1	0.06	1	0.07	4	0.33	10	1.67	-	-	9	0.90
RSウイルス感染症	4	0.07	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	34	0.63	16	1.14	2	0.18	1	0.10	7	1.00	2	0.50	1	0.50	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	95	1.76	28	2.00	20	1.82	10	1.00	6	0.86	9	2.25	3	1.50	19	3.17
感染性胃腸炎	371	6.87	139	9.93	89	8.09	73	7.30	11	1.57	15	3.75	7	3.50	37	6.17
水痘	10	0.19	4	0.29	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	178	3.30	74	5.29	34	3.09	41	4.10	-	-	21	5.25	4	2.00	4	0.67
伝染性紅斑	16	0.30	11	0.79	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	24	0.44	13	0.93	4	0.36	3	0.30	2	0.29	1	0.25	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	40	0.74	30	2.14	5	0.45	2	0.20	-	-	-	-	3	1.50	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	12	1.00	6	1.20	4	1.00	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 21週(発生レベル設定疾患)

(2019/05/20～2019/05/26)

2019年5月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	31	0.37	6	0.27	1	0.06	1	0.07	4	0.33	10	1.67	-	-	9	0.90
咽頭結膜熱	34	0.63	16	1.14	2	0.18	1	0.10	7	1.00	2	0.50	1	0.50	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	95	1.76	28	2.00	20	1.82	10	1.00	6	0.86	9	2.25	3	1.50	19	3.17
感染性胃腸炎	371	6.87	139	9.93	89	8.09	73	7.30	11	1.57	15	3.75	7	3.50	37	6.17
水痘	10	0.19	4	0.29	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	178	3.30	74	5.29	34	3.09	41	4.10	-	-	21	5.25	4	2.00	4	0.67
伝染性紅斑	16	0.30	11	0.79	2	0.18	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	40	0.74	30	2.14	5	0.45	2	0.20	-	-	-	-	3	1.50	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	12	1.00	6	1.20	4	1.00	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3 を示しています。

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第21週 2019/05/20～2019/05/26)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	31	-	-	1	-	-	-	2	-	-	1	1	14	3	-	4	1	1	3	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	34	1	4	8	3	3	3	2	1	2	1	1	2	1	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	95	-	1	5	1	6	14	11	10	9	11	5	16	2	4
感染性胃腸炎	371	6	45	67	39	29	38	30	22	16	12	12	25	4	26
水痘	10	-	1	-	-	2	2	1	-	3	-	-	1	-	-
手足口病	178	-	26	80	38	14	10	3	2	1	1	-	1	1	1
伝染性紅斑	16	-	-	4	-	2	5	1	2	1	1	-	-	-	-
突発性発疹	24	-	13	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	40	-	7	15	7	2	4	2	1	-	-	-	1	-	1
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	-	1	2	-	1	-	1	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	12	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2	1	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

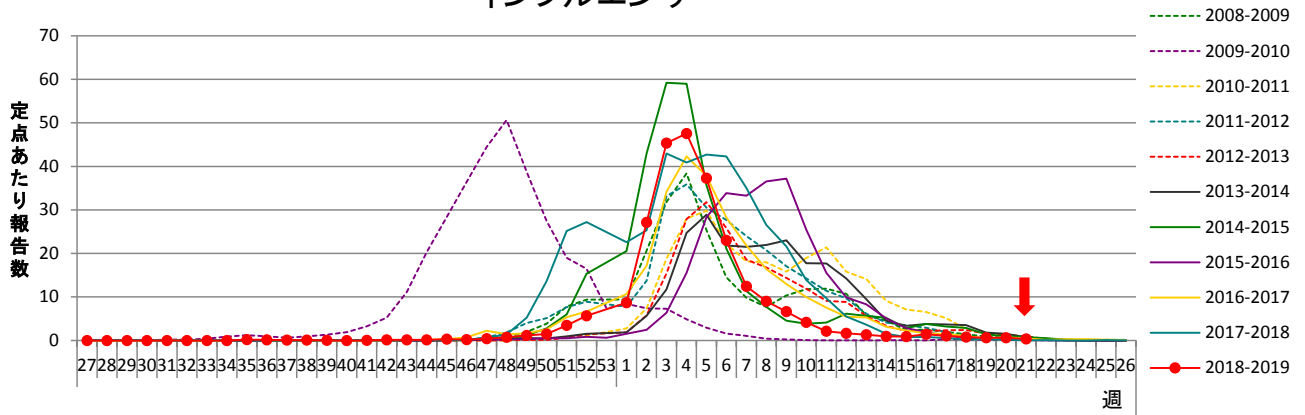
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

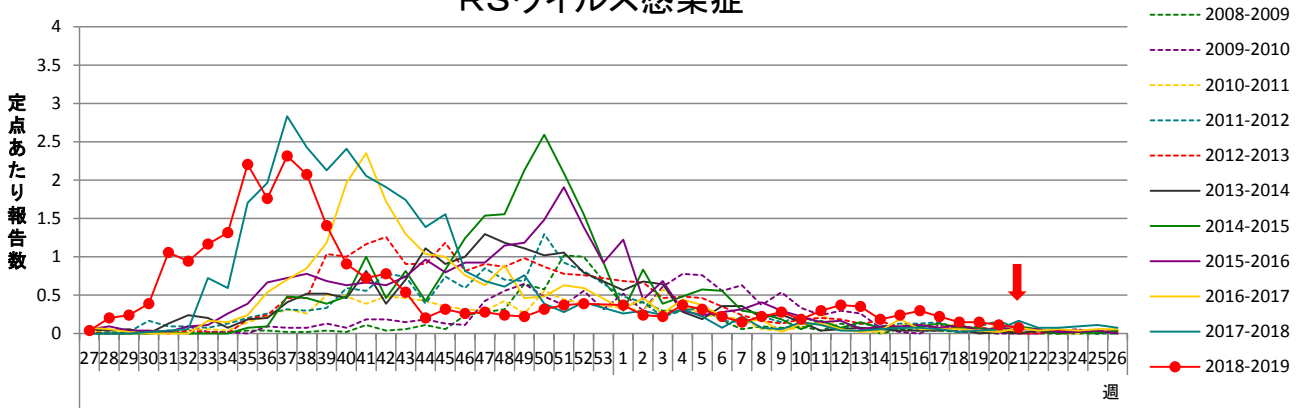
2019年 21週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	8	133	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	16	腸管出血性大腸菌感染症	1	11	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2
	デング熱	1	2	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	18	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	6	15	ウイルス性肝炎	-	4	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	13
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	1	3	急性脳炎	-	7	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	14	後天性免疫不全症候群	-	4	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		-	23	45	水痘(入院例に限る。)	-	3	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		1	59	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	2	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	百日咳	1	98	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

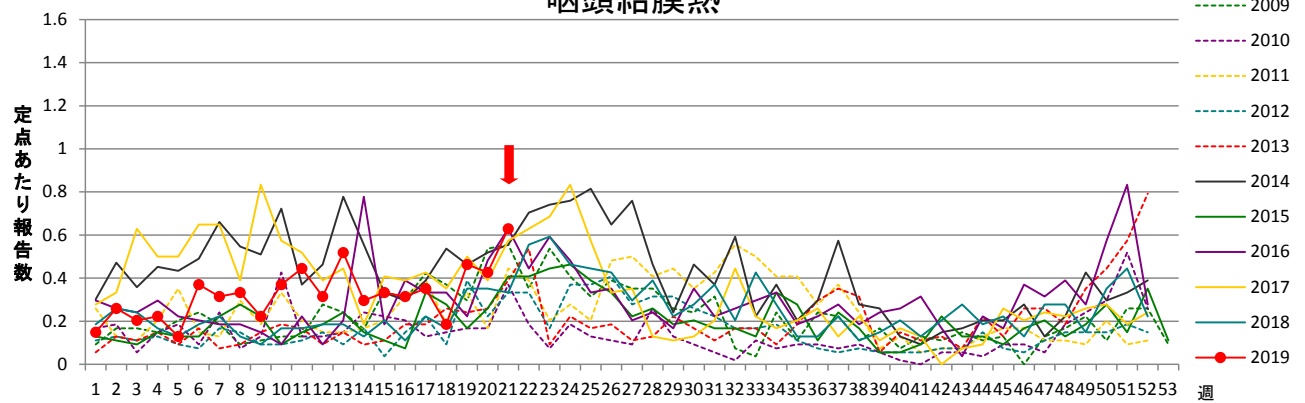
インフルエンザ



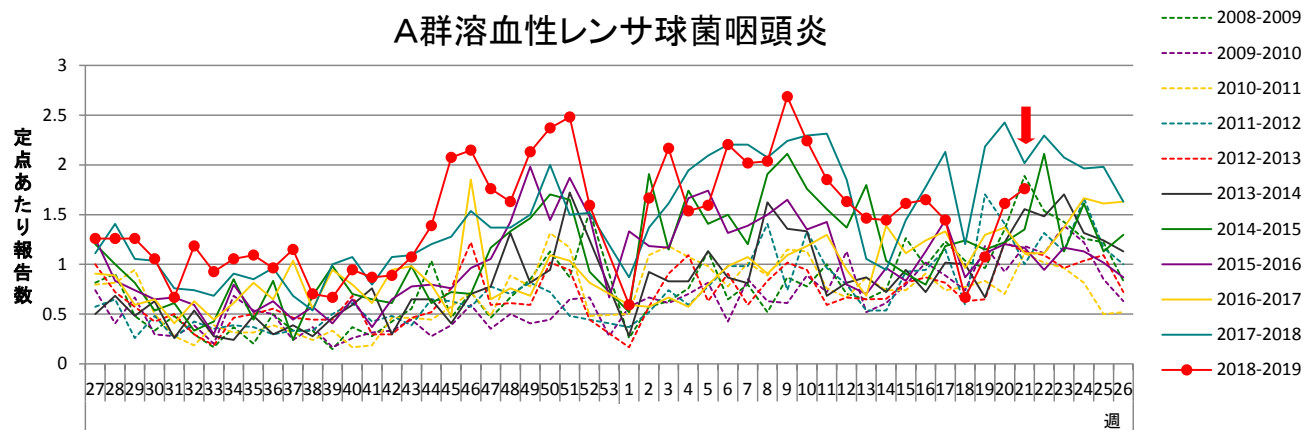
RSウイルス感染症



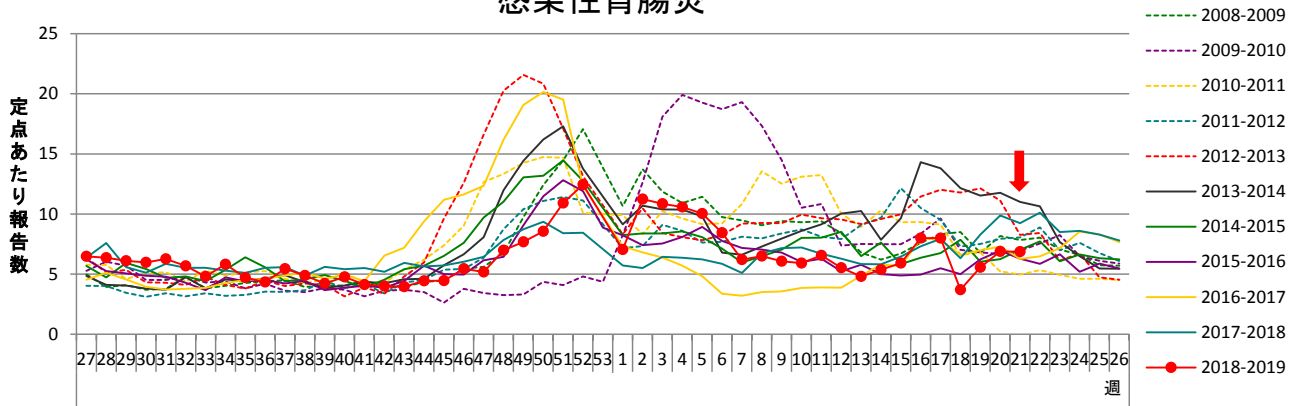
咽頭結膜熱



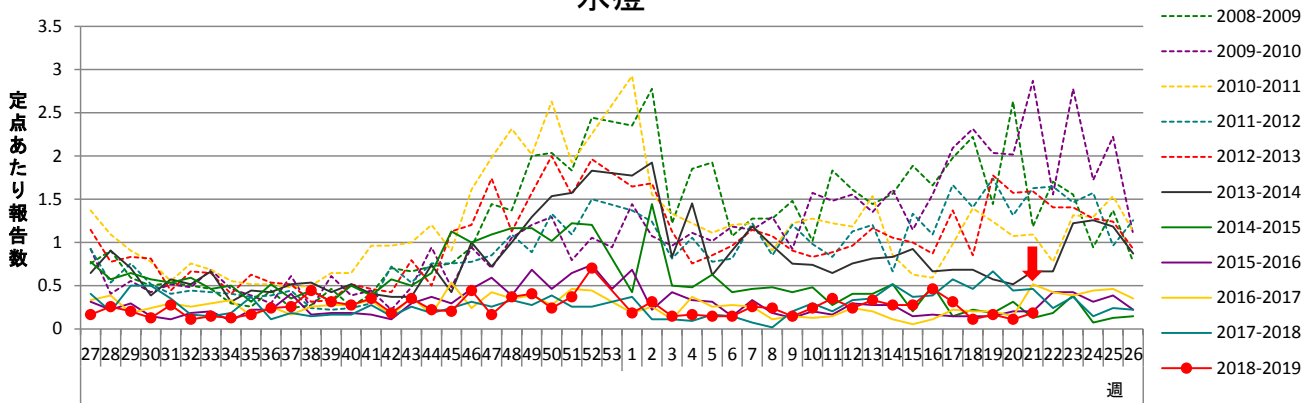
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



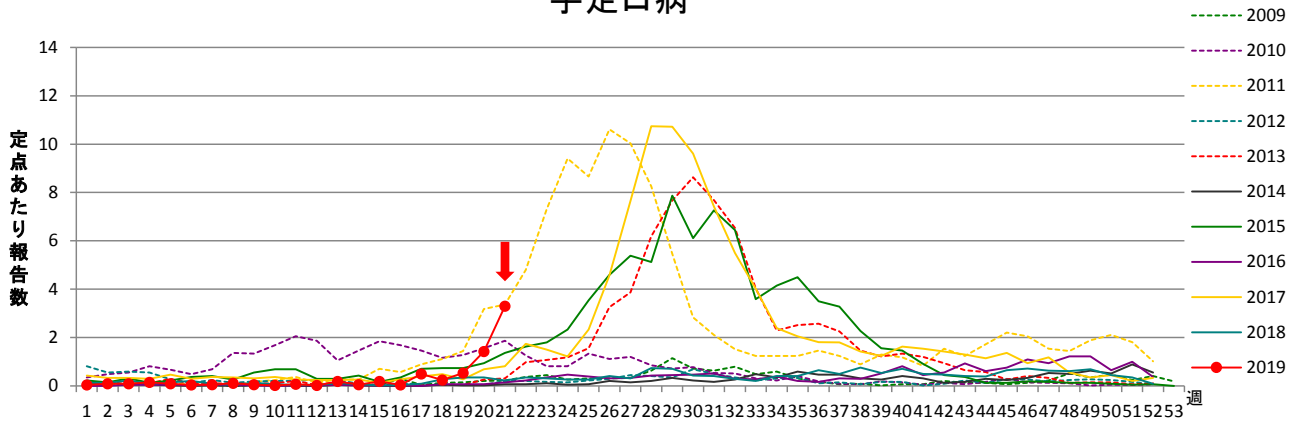
感染性胃腸炎



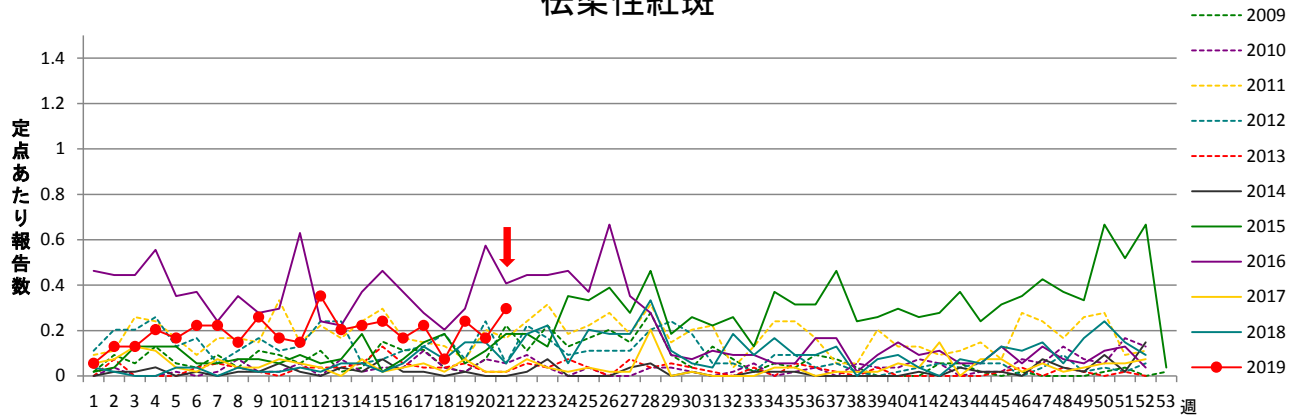
水痘



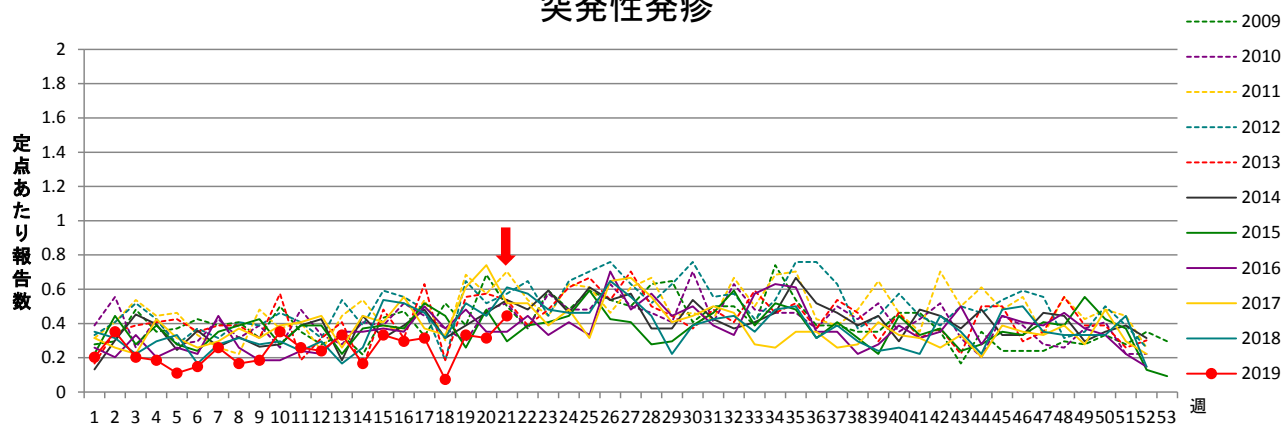
手足口病



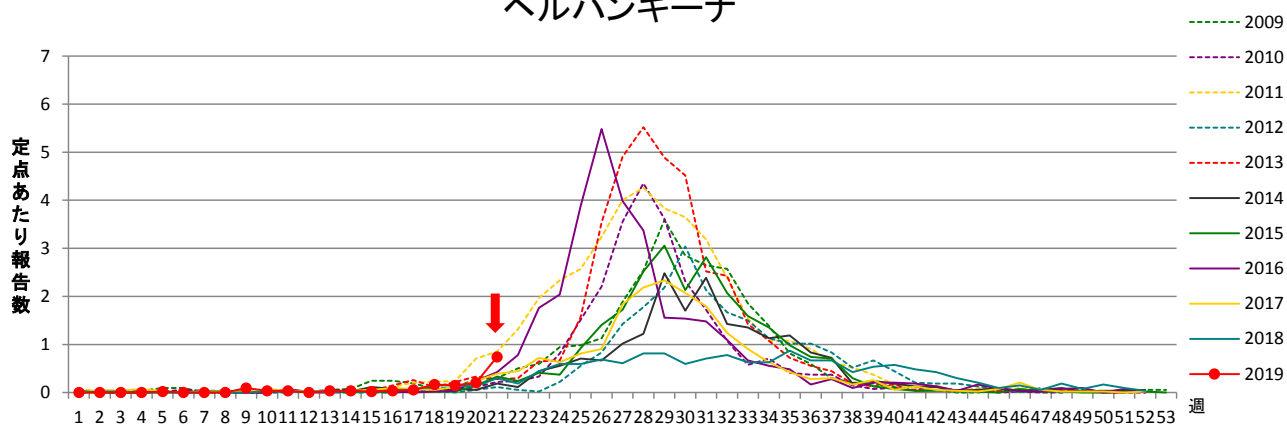
伝染性紅斑



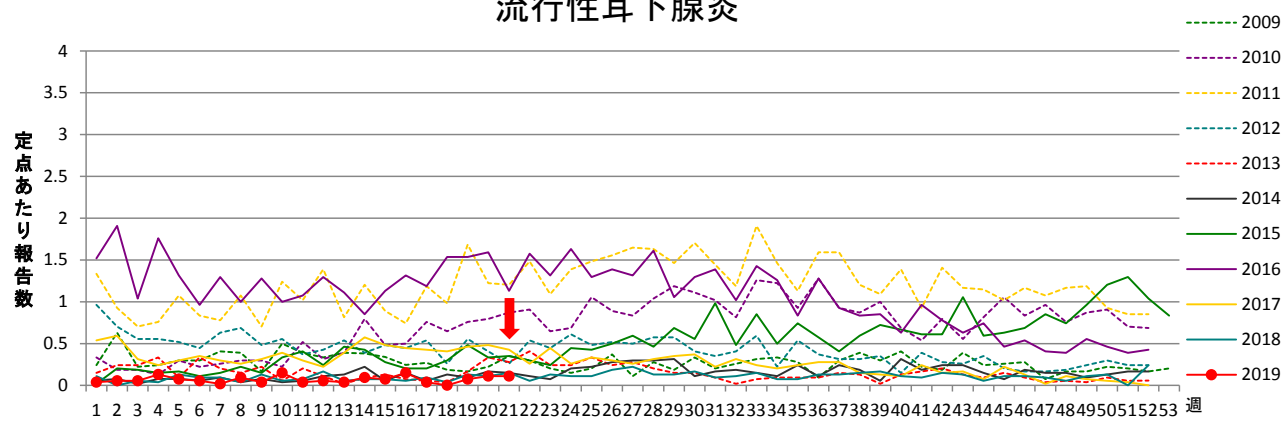
突発性発疹



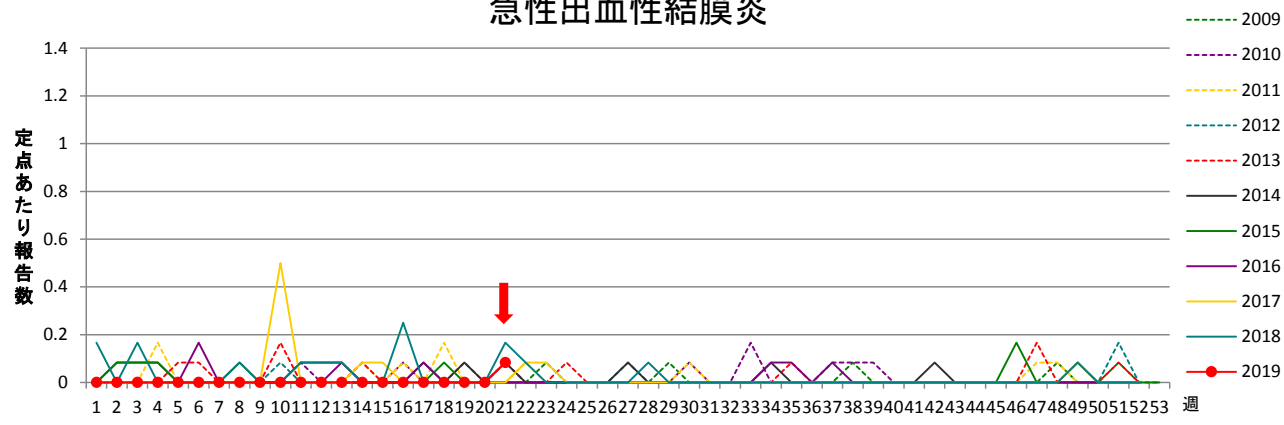
ヘルパンギーナ



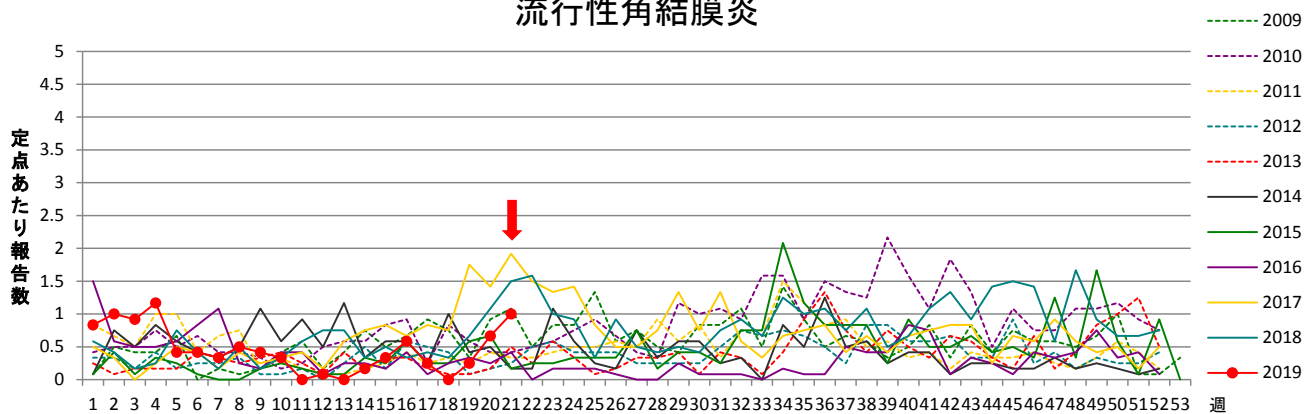
流行性耳下腺炎



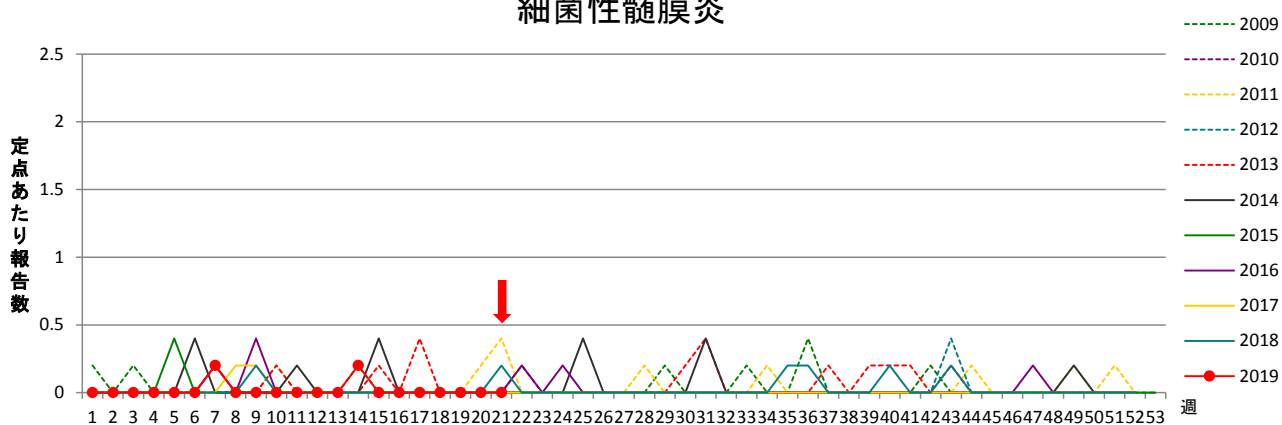
急性出血性結膜炎



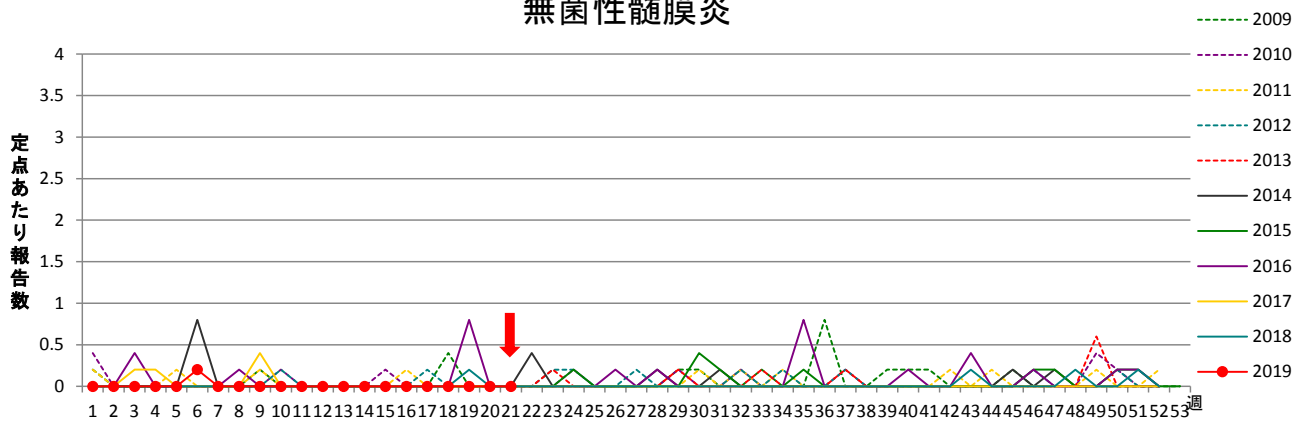
流行性角結膜炎



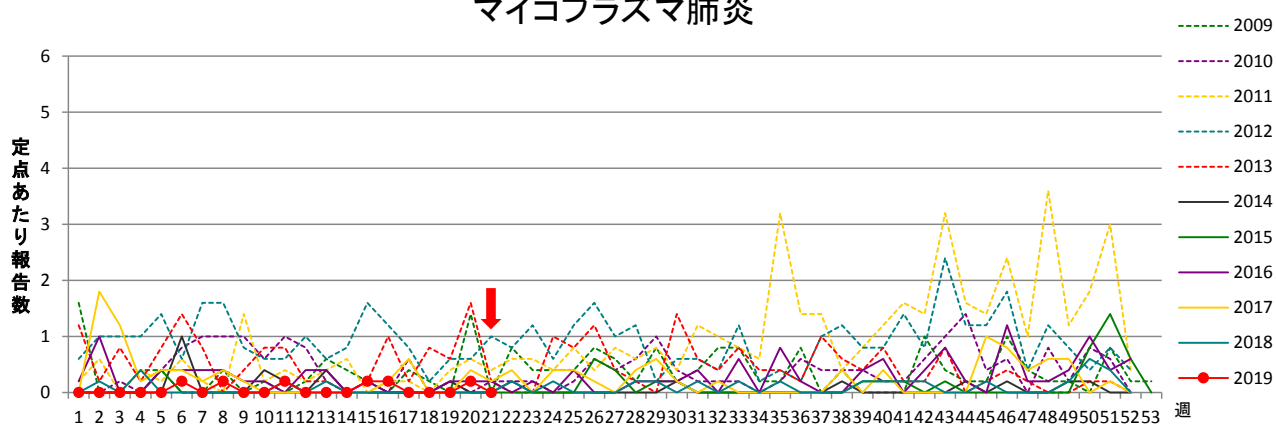
細菌性髄膜炎



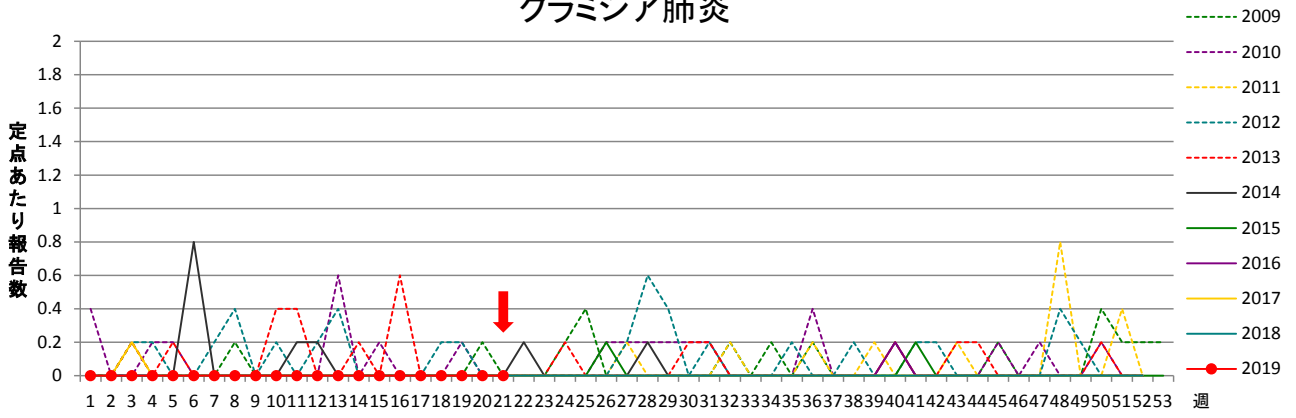
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

